

令和7年6月25日

	後楽園事務所	岡山県 郷土文化財団
担当	川井・真柴	西中・植田
電話	086-272-1148	

お知らせ

タンチョウのヒナが誕生しました

岡山後楽園で、タンチョウのヒナが1羽誕生しましたのでお知らせします。
なお、本件については、岡山中央署記者クラブにも本日発表します。

記

1 概要

岡山後楽園では、当園の秋冬の風物詩となっている「タンチョウの園内散策」の安定した継続に向け、飛翔個体の次世代育成に取り組んでおり、自然保護センターから譲渡された有精卵を当園のタンチョウが代わって抱く「托卵」の方法により、6月24日にタンチョウのヒナ1羽が誕生しましたので、お知らせします。

なお、当園でのヒナ誕生は、平成14年（2002）年以来、23年ぶりとなります。

2 公開場所

タンチョウケージ内

※天候やヒナの状態等によっては、公開を中止することがあります。

3 その他

- ・誕生時の写真や映像については、当園で撮影したものを提供することができますので、必要な場合はお問い合わせください。

〈参考〉

○後楽園では、江戸時代からタンチョウをはじめとする様々な鶴を飼育しており、「瑞鳥ずいちょう」として大切にされてきました。終戦後一時途絶えましたが、昭和31年、岡山の旧制第六高等学校で学んだことのある中国科学院院長の郭沫若氏かくまつじやくからタンチョウ2羽が後楽園に贈られました。この2羽が岡山県下の数多くのタンチョウ飼育の礎となり、今では全国一のタンチョウ飼育県となりました（令和7年6月現在57羽、後楽園ではそのうち9羽を飼育）。

また、岡山後楽園では、9月から翌年2月にかけて12回のタンチョウの園内散策を実施し、後楽園の特別年中行事として入園者から好評を得ています。文化財庭園においてタンチョウが散策、飛翔している姿を見ることができるのは全国でも後楽園のみです。